

秋田大学男女共同参画推進室

# Newsletter vol.34 2020.01

## 「理系で広がる明るい未来～理工ガールの活躍する社会へ～」を実施しました



令和元年11月7日(木)に、秋田大学教育文化学部附属中学校において、保護者・教員向け講演「理系で広がる明るい未来～理工ガールの活躍する社会へ～」を実施しました。当日は、32名にご参加いただきました。

本学大学院理工学研究科の山口留美子教授による講演では、テレビドラマシリーズや大学案内パンフレット、テレビCM、企業等のホームページといった多岐にわたる身近な情報から、女子学生の理系進路選択、理系出身者の就職の現状についてお話いただきました。講演の中で、金融機関などの文系分野と認識されてきた企業においても、理系出身者の採用に力を入れているという現状などが紹介されると、参加者はメモをとるなど関心を寄せていました。



終了後のアンケートでは、「参加する前は子どもを文系に進ませたいと考えていたが理系に進ませたいと思うようになった」と回答された参加者10名を含め、「子どもを理系に進ませたい」と回答した参加者が92.5%にのぼりました。また、「大変参考になる内容でした。今度は講師ご自身の子ども時代や理系選択をした理由、子育てについて伺いたいです。」といった感想も寄せられました。

## 「理系ツアーin横手」を実施しました

令和元年11月9日(土)に、横手市で「理系ツアーin横手」を実施しました。

午前の部では、わくわく科学工房代表の石橋研一先生を中心に実験を交えた講演「豊かな発想を生かし、『科学する人』に！」を実施、12名にご参加いただきました。石橋先生は「科学する人」を目指す際に大切な事や必要とされる能力、考え方などについて解説し、テーマ毎に実験を行いました。風力を利用して発電を行い、生じた電気エネルギーを他のエネルギーに変換する演示実験では、音や光の装置が動作する様子を参加者は楽しそうに観察していました。



また、午後の部では、株式会社アクトラスによる企業紹介と、株式会社アスターの施設見学を実施、7名にご参加いただきました。

株式会社アクトラスの企業紹介では、眞田慎社長より会社の概要説明をいただいた後、製品デザインや性能評価、広報などを担当されている2名の女性社員から商品開発から販売までの流れ、その中でのこだわりや大切にしていることについてお話をいただきました。また、ものづくり日本大賞優秀賞を受賞した「点滴センサ」の実演では、参加者は説明に真剣な表情で耳を傾けていました。



その後の株式会社アスターでの施設見学では、稼働中の実際の作業の様子を見せていただいたほか、加工の実演をしていただいたり、製品を手にとらせていただいたりしながら説明を受けました。同社で開発した高効率モーターコイルの説明では、電気計器に製品をつなぎ従来製品との違いを確認すると、うなずいたり、のぞき込んだりと興味深い様子でした。

終了後のアンケートでは、「理系のおもしろさや、生活に活かされている科学について触れることができ参考になった。」「今の技術に触れることができ良かった。」といった感想が寄せられました。

## 秋田大学総合技術部第11回テクノフェスタ・秋田市シンポジウムに出展しました

令和元年11月3日(日)に開催された「秋田大学総合技術部第11回テクノフェスタ」、同11月9日(土)に開催された「女性の活躍推進シンポジウム2019 女性活躍!きらめきマルシェ」の企業・団体紹介コーナーにて、本プロジェクトのパネル展示とチラシの配布を行いました。

両イベントともに秋田駅直結の秋田拠点センターALVEを会場に、本プロジェクトの概要や、これまでの取組について書かれたパネルに目をとめていただいたほか、予定中の取組チラシやニュースレターvol.33あきた理系プロジェクト～特別篇～を手にとっていただきました。

これらの出展で地域の皆様に本プロジェクトを広く周知することができました。



## 「理系フェスin秋田」を実施しました

令和元年11月17日(日)に、秋田大学を会場に「理系フェスin秋田」を実施しました。

午前の部では、わくわく科学工房代表の石橋研一先生を中心に実験を交えた講演「豊かな発想を生かし、『科学する人』に!」を実施、8名にご参加いただきました。テーマ毎に実験を組み入れた講演の中で「バイオリン式発電機」を使った実験では、参加者は弓で装置をこすことでメロディーが流れる仕組みに興味津々で、熱心に弓を動かしていました。また、「宇宙ゴマ」を作成するものづくり体験では、CDやマジックペンなど身近なものを材料にコマを作成し、ものづくりに触れました。

午後の部では、本学教育文化学部の田口瑞穂先生による体験教室「磁石って何者?」を実施、8名にご参加いただきました。体験教室は、田口先生が身近な磁石に関する7つの不思議や疑問を投げかけ、参加者が予想をたてて実験を行い、結果を考察しながら進められました。

「誘導電流の不思議」の実験ではアルミ管や銅管の中を磁石が不思議な動きで落ちていく様子に、参加者は驚きながらその理由について様々に考えを巡らせた後に田口先生の解説を聞くと、メモをとるなど熱心な様子でした。また、田口先生は科学者・研究者は発表の機会も多く、自分の考えを相手に伝えるように表現する能力も大切だと伝え、参加者は真剣な表情で聴いていました。



体験教室に続いて行われた、学生との交流会および保護者の理系進路相談会では、学生に受験についての質問をしたり、実際の試験問題を教えてもらったりと、有意義な時間を過ごせた様子でした。

終了後のアンケートでは、「授業で教えてくれないこともたくさん教えてくれて、もっと理系に興味をもった。」「身近なものでの実験ということで、科学は生活に深くかかわっているのだと分かりました。」といった感想が寄せられました。

## 理系進路選択支援に関する教員との意見交換会を開催しました

令和2年1月9日(木)に、秋田大学教育文化学部附属中学校を会場に「理系進路選択支援に関する教員との意見交換会」を開催しました。

はじめに、山名裕子学長補佐が本プロジェクトの概要や、今年度の取組内容、課題等を紹介し話題提供を行いました。

続いて行われた意見交換では、プロジェクトに対する質問や、児童生徒の現状、取組に対するアドバイス等、様々な意見が交わされました。

終了後のアンケートでは「時代に合わせて理系女子の必要性を考えられていて、様々な取組があると分かったので勉強になった。」「各中学校を直接訪問して講座に参加できる状況をつくるのがよいと思う。」といった感想をいただきました。

